

令和3年度

竹田城跡遺構現状確認調査現地説明会資料

～大手虎口・南二ノ丸周辺通路～

2022.2.19

朝来市教育委員会文化財課

1. はじめに

朝来市では、平成 29 年 3 月に策定した『史跡竹田城跡整備基本計画』に基づき、平成 30 年度から本格的な竹田城跡の整備事業に取り組んでいます。

計画 4 年目の今年は、大手道下半部、南千畳虎口、北千畳北側の整備と大手虎口、南二ノ丸周辺通路の遺構確認調査を進めています。この確認調査は史跡内の適切な保存と活用を図るため実施するもので、現状遺構の評価と新規遺構の確認を目的として実施しました。

2. 竹田城跡の位置

竹田城跡は、兵庫県のほぼ中央部の但馬地域南端に位置する朝来市に所在しており、円山川左岸の古城山山頂一帯に築かれています。但馬・丹波・播磨の国境から程近く、城跡からは山陰道等の主要街道を見下ろすことができることに加え、山麓の城下町が街道を取り込む形で形成されているなど、交通の要衝を抑えることを意図した立地となっています。

3. 竹田城跡の沿革

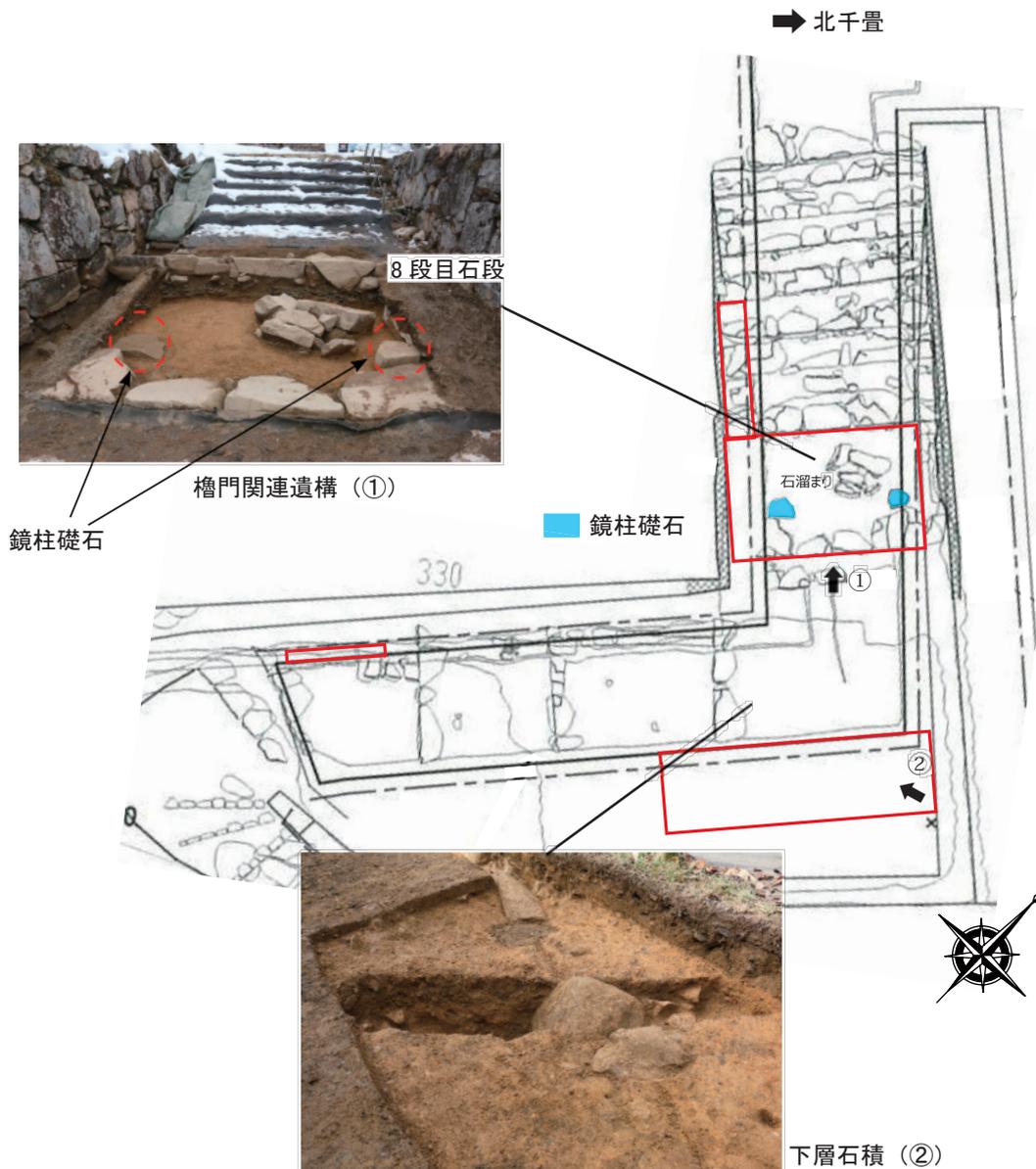
竹田城は、山名持豊（宗全）の配下であった太田垣氏の城として築かれ、7 代にわたって城主を務めたとされていますが、永禄 12 年（1569）以降、天正 8 年（1580）までの 3 度にわたり織田方の攻勢を受け、太田垣氏の支配は終焉を迎えました。

その後、天正 10 年（1582）に桑山重晴、天正 13 年（1585）に赤松広秀が竹田城の城主として入城し、石垣の城郭を築造しました。最後の城主となった赤松広秀は慶長 5 年（1600）までの 15 年間にわたり城主を務めましたが、慶長 5 年（1600）の関ヶ原の戦いでは西軍に属し敗者となり、さらに鳥取攻めにおける城下焼き打ちの罪により自刃したことにより、竹田城は廃城となりました。

竹田城については元和元年（1615）より生野奉行（享保元（1716）年以降は生野代官）の管理下に置かれました。しかし、大規模な破却は免れたようで、城跡の一部石垣は現在まで残されています。昭和 18 年（1943）に国史跡に指定され、平成 21 年（2009）の追加指定を経て、現在に至っています。



調査位置図



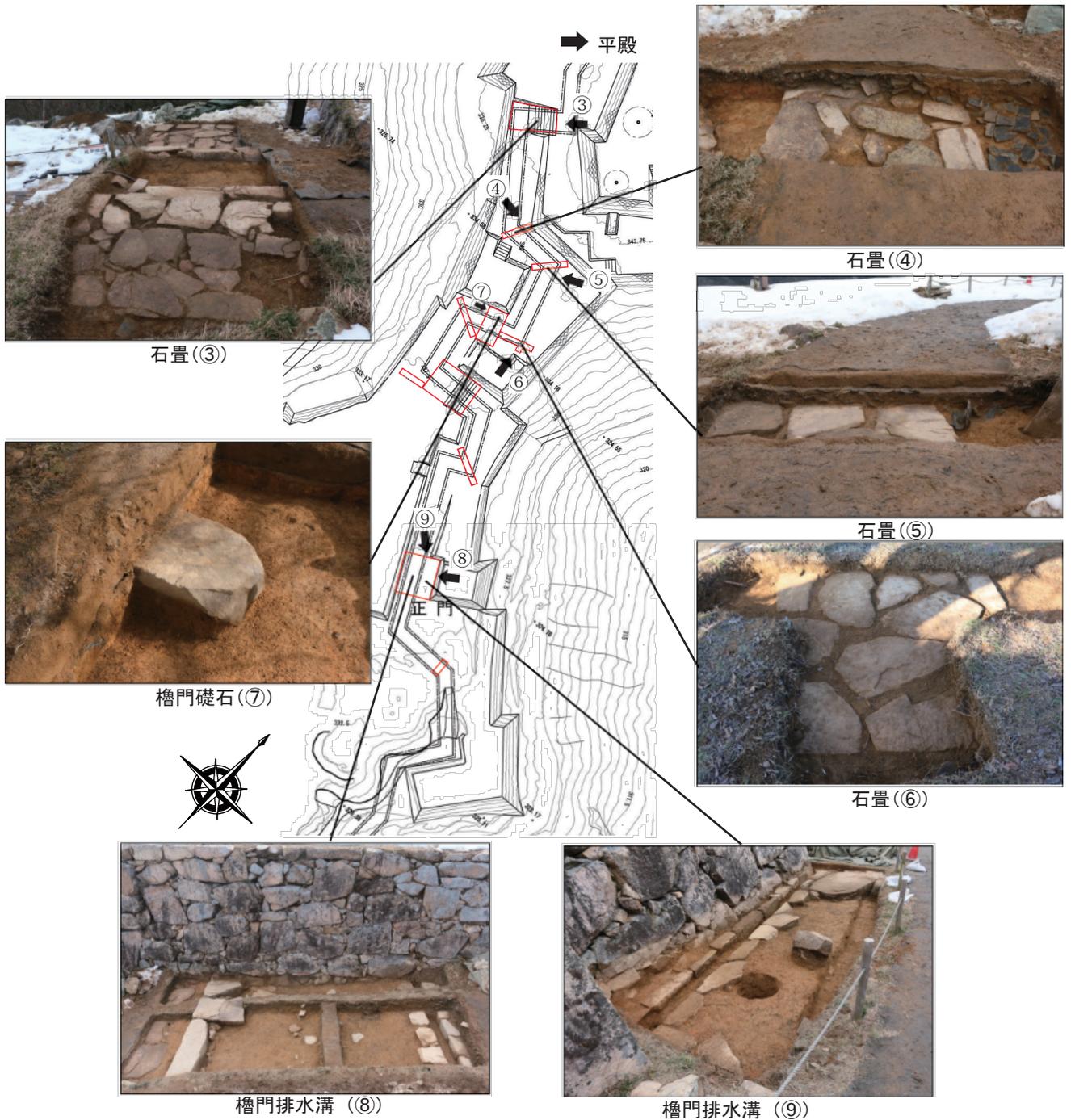
4. 大手道枡形虎口周辺通路の調査結果

【櫓門礎石】 (1)

今回の調査で櫓門の礎石を2石確認できました。北側の礎石は平面 46×51 cm、南側の礎石は平面 51×35 cm しており2石とも長方形に近い形をしています。礎石の面加工からおそらく鏡柱礎石（門の正面になる柱の基礎石）と推定されます。控え柱礎石（門の後方になる基礎石）は抜き取られたか、既存石段下の部分であると推定されます。8段目の石段は直下に大量の瓦が刺さっていることから廃城後に据え直されていることが分かります。当初の姿は櫓門を通り抜けると7段目まで緩やかなスロープになっていたと思われます。石列の中央で見られる石溜りは近代の攪乱です。

【下層石積み】 (2)

今回の調査で昨年度のトレンチから見つかった下層石積みとそれに伴う裏込め石が新たに北東側で見つかりました。見つかった石積みは根石（石積みが一番下）の部分になります。時期を特定できるような遺物は出土しておりませんが、既存の石垣より前の時代に、現在とは異なった虎口形態をしていたのではないかと考えられます。既存の石垣を築城する際に下層石積みは取り外され、根石などの下の部分のみ残った可能性があります。下層石積み付近で規則性をもつ柱穴を確認しましたが、下層石積みとの関係性、その性格はわかりません。



5. 南二ノ丸周辺通路の調査結果

【石畳】(③・④・⑤・⑥)

今回の調査の結果、平殿から南二ノ丸櫓まで延長約 43 m、幅約 2 m の石畳が広がっていることを確認しました。また石畳に並列するように瓦が敷き詰められていました。この石畳は平成 30 年度の調査においても三ノ丸虎口から二ノ丸虎口にかけて確認されています。三ノ丸石畳と同様、石畳が存在する部分は生活や饗応意識が強い空間、存在しない部分は防御意識が強い空間として使用されていたと考えられます。城内の場所によっていわゆる空間利用の差異がみられる可能性があります。全国でも石畳が確認されている山城は少なく、大変貴重な発見です。

【櫓門礎石】(⑦)

櫓門の礎石を 2 石確認しました。東側の礎石は方形に近い形、西側の礎石は平面約

30 cm × 35 cmしており長方形に近い形をしております。

【排水溝】(⑧・⑨)

南千畳の出入口にあたる東の丸櫓門で排水溝が見つかりました。排水溝は花崗岩製で、溝の大きさは幅 24 cm、深さ 18 cmです。東側の排水溝は石垣に対し、軸線がやや東にふれています。これらの遺構から雨水は横断溝をつたって東側の石垣の縦断溝に流れていたと思われます。



横断排水溝



縦断排水溝

7. まとめ

以上のように今回の調査では、新たに櫓門の礎石、排水溝や石畳など城の様々な様子が明らかになりました。このことから以前から城門が想定されていたところには櫓門があったと裏付けられました。また石畳においても空間利用の違いがみえてきました。今後はさらに検討を重ね、遺構や出土遺物から時代や性格について考えていきます。



竹田城跡整備イメージ

朝来市教育委員会文化財課

〒669-5153 兵庫県朝来市山東町大月 91-2 TEL : 079-670-7330 FAX : 079-670-7333